

第3回 昭和橋景観検討委員会 議事録

平成31年2月19日（火）15:00～17:00

住田町役場 1F 町民ホール

【司会（次長）】

それでは、定刻となりましたので、只今から第3回昭和橋景観検討委員会を開会いたします。私は、本日司会を務めさせていただきます、住田整備事務所次長の佐々木と申します。よろしくお願ひいたします。

開会にあたりまして、事務局を代表して、住田整備事務所、所長の加藤よりご挨拶申し上げます。

【所長】

本日は大変ご多忙のところ第3回昭和橋景観検討委員会にご出席いただき深く感謝申し上げます。委員会の開会にあたり、私の方から一言ご挨拶させていただきます。

これまでの2回にわたる開催により、デザインコンセプトや橋の基本構造についてご審議いただき、委員の皆様から大変貴重なご意見をいただいたところであります。これまでの委員の皆様のご尽力につきまして、深く感謝申し上げます。前回の委員会におきまして骨格となる基本形状を決めることができましたので、事務局では橋のデザインを形作る部分の検討を進めていたところでございます。

本日の委員会では橋のイメージに大きな影響を与える付属物、高欄、舗装、照明、親柱のデザインについて提案したいと考えています。デザインをどのように形作るかについては、大変難易度の高いものですが、本日は事務局として最大限知恵を絞って作成したものを提示させていただきたいと思ひます。忌憚のないご意見を伺いたいと思ひます。本日はよろしくお願ひいたします。

【司会（次長）】

議事に入る前に配布資料の確認をさせていただきます。お手元の資料もしくは全面のスクリーン用いながら説明させていただきます。

以後の議事進行につきましては柴田委員長にお願いしたいと思ひます。柴田委員長よろしくお願ひいたします。

【柴田委員長】

はい、承りました。委員の皆様、出席ありがとうございます。

事務局、説明の方お願ひいたします。

【事務局】

設計プロセスとスケジュール

前回までのおさらい

デザインコンセプト、デザイン検討の着眼点と方針

【柴田委員長】

ここまでの説明に対してご質問、ご意見よろしいでしょうか。

引き続きご説明よろしく申し上げます。

【事務局】

高欄デザイン

親柱デザイン

舗装デザイン

構造細部形状（橋脚）

照明計画

橋梁デザイン

【柴田委員長】 はい、ありがとうございます。それでは考え方の部分であるとか、デザイン案3、4の推奨案について、どこからでも構わないので、ご意見、ご質問などありませんでしょうか。

【委員】

高欄笠木に地元材料の石材を使用するとのこと、舗装の説明では石材は将来的なメンテナンスが懸念されることや調達性が悪いと説明していた。違いはなにか。

【事務局】

繰り返しの荷重を受けるところなのかという違いがある。笠木は荷重を常時受けないため比較的壊れにくいところであるが、舗装は直接荷重が乗るので壊れる可能性が笠木等よりも高く、取替を前提としている。

【委員】

補足だけど、舗装の場合は石が中国産になり、同じようなものが手に入りにくい。舗装は全面を覆わなければならない。使う量が違う。笠木はそこまで使わないので地元産で心配ではないのでは。

高欄単体のデザインで決めるべきものではなく、橋梁本体と高欄のデザインはセットで考えるべきで、高欄にあまり細かなデザインを用いるとバランスが悪いのではないかと。

イン案④は繊細で、支柱があるとバランスが悪いのではないか。デザイン案③のようなダイナミックな桁に高欄を調和させる方がバランスとしてはいいと思う。コストをおさえる中で、鋳物などの高価なものを使わなくても安っぽくないデザインとなると思う。

町並みを見ると垂直な形状が現地にあっており、垂直が基本という考え方でいいのではと感じた。デザイン案②だと少し複雑すぎる、デザイン案③のバランスがいいと思う。

親柱は今のものに愛着があるので、今後、丹念に細かなところをデザインしていけば良いと思う。素材はコンクリートでいいと思うが、橋名板、テクスチャ、照明も併せて、人の背くらのスケールでいいと思う。地覆は親柱まで連続していなくて切れていた方がデザインとして良い。

【事務局】

親柱の位置について補足します。ウィング端部に設置する予定だが、勾配のある斜面などとの取り合いなどと合わせて検討する。

【委員】

笠木に地元の天然石を使用することは良いと思う。高欄デザイン案①と②は面白いが、複雑すぎるイメージがある。小さい子供は手摺しか見えないので、ちかちかする印象を受けると思う。手摺の間から見える風景を重視すると、④は単調でシンプルすぎる、③は少しの縦棧の工夫で程よくいいと感じた。④は現状の昭和橋のデザインに寄せている印象を受ける。技術的な制約から出た橋脚のデザインなので、分節性に必ずしもこだわることはないと思う。蔵の街並みを主役にしながらという意味で③がベターだと感じた。親柱のプロポーシオン、行燈などと合わせて考えると、もう少し小さくした方がいいと思うので、スタディしていただきたい。笠木の形状、断面が線対称でなくてもいいし、もう少し小さい断面がいい。笠木内蔵の照明の位置も2本の縦棧の間に配置することもあるかもしれない。照明計画は、均斉度に配慮したライン照明が連続するようなものを配置し、四隅端部に明るい行燈のような照明を配置してはどうか。

高欄縦棧の位置は地覆天端に落としているが、デザイン案①の高欄のように外側を外に出すことも1つのデザインとして検討してはどうか。

【委員】

私としてはデザイン案③がいい。デザイン案④だとちょっと複雑な印象を受ける。笠木は石でいいと思う。照明についてはライト間隔が狭い方がいいと思う。デザイン案③の親柱は少し高すぎる。デザイン案②くらいの親柱の形状バランスがいいと思う。舗装には雪が降ると溶けずに残ることが多いので、凍結の問題を考えて滑らないような素材、表面であるといい。

【委員】

高欄のデザイン形状によって、強度の違いはあるのか。

【事務局】

いずれも同じ荷重に対して計算しているので、どれが強いという違いはない。

【委員】

安全性について、ゾーン 30 の中で、車が歩道に乗り上げたりすることがあるかもしれない。橋から車が落ちるようなことがあると大変なので、途中に太い柱があるイメージの方がいいかもしれない。高欄で同じような形がずっと続くと退屈なのではないかと思う。今はどの案が良いか悩んでいる。

【事務局】

基準ベースでいくと、立ち上がり 230mm はよっぽどスピードが出ていない限り、車が縁石にぶつかり戻ってくるという高さで設定している。

【委員】

はじめに資料を見たときにデザイン案②が良いと思った。斜めに入っているラインが蔵並みに一層映えているように見えた。照明は周辺環境に悪影響を及ぼさないようにポール照明を避けているということはいいと思う。魚を集めないような照明とすることがいいと思う。

【委員】

今の昭和橋とこれからのものとの違いは、歩車道の境目があり、その高さの差 230mm があることである。特に夜は歩車道の境目がわかるように高欄笠木内蔵とすることはいいと思う。住田町らしさを考えると連続照明を入れるようなこうこうと明るくなりすぎるのではなく、ある程度ピッチを飛ばした歩車道の境がわかるくらいには安全性に配慮した照明とするのがいいと思う。景観と安全性を両立することが大事。親柱は安全性ということではなく、シンボリックな光という効果と機能が必要である。

【委員】

冬に雪がたまったり、橋の上だけ凍結したりすることに対して、今の技術でできることはあるか。

【事務局】

長大橋で採用されているような雪を解かずロードヒーティング等の技術はあるが、お金が

かかり事業者判断になる。どこまで必要があるか、コンクリート橋で、桁裏から川までもそこまで離れていないので、一般的にはそこまで問題とならない場合が多い。

【委員】

歩道の舗装仕上げに関して、表面の骨材を出すのはいいと思う。材質比較の中で、ボーダーで石をいれた方がいいのかそのあたりの検討はされているのか。

【事務局】

本日説明はしていませんでしたが、デザイン案④は高欄支柱などに合わせてボーダーを入れており、リズム感を出している。デザイン案③は橋のデザインとしてボーダーは入れずにまとめた。

【委員】

電線がやはり気になる。関係各所に電線をなんとかできないか引き続き検討していただきたい。

親柱に橋名板があったのはいいが、橋の名称をどうするか、重要なことなので検討いただきたい。

たたら製鉄を橋名板に使ったり、照明に使ったりできると非常にいいと思う。

橋詰空間が大事なので、次回以降、護岸の法面も含めて引き続きご検討いただきたい。

【事務局】

電線は東北電力と協議中である。

橋の名称はまだ議論していないので、どう名称を決めていくかなど具体的にはこれから。

橋詰、護岸法面などは今後検討していきたい。

【委員】

地元の石材、金属の仕上げなどは口で言ってもよくわからないので、今すぐではないが、デザインを決定していく場合はサンプルを作って、確認してはどうかと思う。そこまでやらないとイメージだけでは分からないので、現物を見て納得できるようにもっていくべきである。委員会でもぜひやっていってもらいたい。

【柴田委員長】

意見をまとめると、デザイン案③が好評だったという印象だが、委員会では③を推奨ということとして了承したいと思います。個人的な意見は、デザイン案④のように現橋に似せた案とすると普通になってしまうのが懸念される。デザイン案③のデザインがいいと思う。親柱については、もう少し小ぶりにすることを考えて、存在感のあるものを考えてほしい。

親柱の照明はあった方がいい。高欄内蔵はあまり明るすぎないということも重要。
電線、橋の名称、橋名板をたたら製鉄で住民参加、橋詰空間など橋の周辺に関しては今後
ということで、今日のまとめとしたいと思います。

【委員】

予算に関わる話だと思うが、町の方から役場に行くときにはミラーがよく見えないので、
役場から町に入るときにランプが点灯するとか、何かわかりやすい表示などできないのか。

【事務局】

技術的にはできるが、町道部分の整備によって変わるところもあるので、今後も検討して
いきたい。

【柴田委員長】

現物確認、最低限決まった素材、仕上げを並べるくらいまでは行いたいと思う。

【柴田委員長】

その他についてよろしいでしょうか。

【事務局所長】

本日は高欄等付属物設備について議論していただきましたが、次回の委員会では橋詰、護
岸等の計画をつめて、トータルでどうなったかをまとめたいと思っている。開催時期につ
いては検討時間を考慮して、7月ごろ開催と考えている。詳細の日程については、委員の皆
様のご都合を合わせて決定していくつもりである。

【委員】

河川解禁があるため、7月初を避けていただきたい。

【委員】

新しい橋の景観検討委員会ですが、今の昭和橋を大事にするということで、桜の時期に写
真を撮って写生するという計画があるのでよろしくお願い致します。

【司会】

以上を持ちまして、委員会を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。